



編集・発行 日蓮宗 能勢妙見山 広報部 〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 電話 072-739-0329 FAX 072-739-2883

福をトリ入れ

トリ仕切ろう

日 慧

新春を迎えてご挨拶申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申しあげます。

今年、丁酉(ひのと)の年。「酉」は成熟を表します。酉に「シ」を付けば「酒」になります。極限にまで熟し、よく発酵した状態を表すものです。

酉はまた時刻でいえば午後の五時頃。夕方、一日の仕事が片付いて、帰途につくという頃合いです。つまり一日でいえば仕事の成果が見える。一年でいえば、春から育てて取り入れた収穫が全て蔵に納まる時期です。そこから、成果、あるいは頂点を表します。本年

は頑張れば商売繁昌の年、長年かけてきた努力が実り最高の結果を得ることができるといえること。西年生まれの人、直感力行動力に優れ迷いがなく決断が早いとされます。一般に社交的であり、人の上に立って取り仕切る親分肌の人が多いのが特徴です。

ただその反面、外面は良いが本音を表さず意外に神経質で、プライドが高いといわれ、また決断が早いものの、すぐ諦めるという欠点があります。干支についてさらに見ていくと「丁(ひのと)」は文字通り火を表しますが、「丙(ひのえ)」が兄であるのに対しての弟の意味があります。勢いのよい火の性です。

が、丙ほど勢いはなく、自らを駆り立てて粘り強く続けていかないと、大きな炎にはなりません。

ということ、本年は計画を熟成させるのに最もよい年であり、計画が成れば積極的に活動に移し、大いなる成果を得ることができるといえます。但し、一つ注意しなくてはならない大事な点があります。酉の欠点であるすぐ諦めるとい

うことです。事が熟すまで粘り強く、諦めずに取り組むことが肝要です。火のように燃えてもすぐ消えてしまうことがないよう、水の流れの如く、はじめ細くても、やがて大河となり大海となるよう、途切れることなく続けることが信仰の肝心だと、日蓮聖人の御遺訓にあります。何事によらず水のように続けることが大切です。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

應當に

一心に

自ら書き

若しは

人をして

書かしめん

『普賢菩薩勸発品第二十八』

年の始めのためしとて

机に向かい筆を執り

禁酒・禁煙・禁パチと

書いてはみたがどうなるか

誓って破ってまた誓う

決まり文句は今年こそ

そこがポイントリフレッシュ

あなたためしてみませんか

【1月の主な行事】

- ☆正月歳始祈禱 1日(土) 15日
- ☆書初め写経会 8日(日) 11日
- ☆月例祈願法要 15日(日) 13日
- ☆鷗様月例祭 22日(日) 15時
- 当日は火伏守札を授与

【2月の行事予定】

- ★節分星祭祈禱 3日(金)
- ◎当年星供ともいい、この一年の善星皆来・悪星退散を祈ってご祈禱します。ご祈禱申込受付中です
- ★国禱会々お火焚祭り 11日(祝) 10時から法要
- ★写経会 12日(日) 11時
- 寺務所2階にて法華経写経初心者の方もどうぞ！
- ★月例祈願法要 15日(水) 13時
- ★願い事を書いた兜矢を献納
- ★鷗様月例祭 22日(水) 15時
- *2月の茶論はお休みです

《送迎車のご案内》

能勢電鉄のケーブル・リフト運休の期間、御祈禱・回向等を受けられる方、奉賛会会員の方は、能勢電鉄妙見口駅へ妙見山上の間を能勢妙見山から送迎車を出します。

事前予約が必要ですので妙見山事務所までご連絡下さい。電話 072-739-0329

ダウンサイジング

末田 真啓

冬の代表的な味覚の牡蠣（かき）は、さまざまな料理に使われ専門店もある人気の食材です。

牡蠣は全国各地で養殖され、殊に三陸沿岸の牡蠣は広島とやらんでブランドとなっていました。五年前の東日本の震災と津波によって沿岸の漁業は壊滅的な被害を受け、ようやく牡蠣漁が再開されたのは最近のことでした。

そんな中、南三陸のI漁港では、牡蠣漁の再開に当たって、生産者間の話し合いで従来のような過密なやり方は改めて、生産量を例年の三分の一に減らすことになりました。

牡蠣は、カキ棚に稚貝をつるして海のプランクトンを餌にして成育するまでに通常で三年はかかるといわれています。ところが、一

年目に海からカキ棚を引き揚げてみると、予想も無いことが起こっていたのです。すでに牡蠣が三年物の大きさになっていました。しかも、よく太った「雑味のないきれいな味」に成長していたのです。三分の一の生産量にしたことよって、牡蠣の排泄物が減少して海水の栄養分を十分に吸収していたと考えられています。

サイズダウンという消極的な選択で、勇気の要る決断だったと思いますが、実際には規模を小さくすることで作業量が減り、労働時間が短くなって、大切な家族との時間も今迄よりも増えるようになっていきます。収穫量は少なくなりましたが材料費がその分からなくなり、コストが下がって収益性は上がりました。人も自然にも優しい持続可能な漁業という未来も見えてきたのです。更に、日本で

新年あけましておめでとうございます。毎年飽きずに同じ挨拶をしておりますが去年とは違う自分です。いろんな知識や経験が増え成長したなと思う反面体力は落ちていたり。それだけでなく体調やそのときの気分でも違う自分がいます。全てが変わり続ける

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

この世の中。仏教において、生きている事それだけで素晴らしいのですが、その中でもし誰かを助け、共に幸せになればとても素敵なことです。自分も環境も変わり続けるこの世界で、今年も法華経という地図を見ながら歩んで行ければと思います。U.K

初めて国際基準の養殖販海のエコラベル「ASC」に認証されるという大金星まで得ました。いつでも縮小が良いとは限りませんが、どんなことでも度を越えるとかえって良くない結果となるものです。仏教では極端によりすぎない「中道」が大切だと説きますが、自分達の中道がどこにあるのか、新年に当たって改めて考えるのでもいいかもしれませんね。

俳壇 (みのり)

大杉に一声高く初鵜からす

起重機の上りしままに年迎ふ

遠近をちに響く鐘の音里鎮か

御宝前を清む毛ばたき年迎え

門口はばたんの葉牡丹幾重にも渦を巻く

暦のあれこれ

天一天上

古代中国では、天一神という神様が信じられていました。この神様は方角を司る神様で、普段は地上にいます。定期間、天の宮殿である紫微宮（しびきゅう）に昇って住むとされ、その期間が天一上といわれています。ちなみに、紫微宮とは星の王である北極星（妙見様）を中心とした天の神々が住む宮殿です。

方角を司る天一神が、癸巳（みずのとみ）の日から戊申（つちのえさる）の日までの十六日間天の宮殿に居る為、この期間は地上での方角の禁忌がなくなり、どの方向へ出かけても障りがないとされた吉日です。しかしそのかわり、日遊神という神が地上に降りて、人家に入り悪さをするので、出かける時も家を掃除して、清潔にしていなければならぬとされています。